

2011 年度 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究プロジェクト 研究計画書

2011 年 5 月 9 日提出

1. 研究プロジェクト名		「古典演劇情報アーカイブ」プロジェクト
2. 研究プロジェクト代表者		赤間亮
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間		2011年 4月 ~ 2012年 3月
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	赤間亮	立命館大学文学部・教授
特別招聘教員		
研究員	倉橋正恵	衣笠総合研究機構
客員研究員	大西秀紀 松葉涼子	立命館大学・非常勤講師 日本学術振興会・特別研究員PD(南山大学)
PD	石上阿希 金子貴昭 周萍	衣笠総合研究機構・PD 衣笠総合研究機構・PD 衣笠総合研究機構・PD
RA	加茂瑞穂 二俣希	立命館大学大学院文学研究科・D3 立命館大学大学院文学研究科・D1
学内研究協力者	坂部裕美子	立命館大学大学院文学研究科・D2
その他	廣瀬千紗子	同志社大学・教授

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

【歌舞伎デジタルミュージアム構築（倉橋正恵、松葉涼子、二俣、坂部）】

本研究では、絵入狂言本、評判記、番付、正本などの諸資料を連携させ総合的な歌舞伎デジタルミュージアムをWeb上に構築する。

これまで、蓄積してきたデータを連係させ、歌舞伎の網羅的DBを構築し、イメージ情報を伴ったデジタルミュージアムとなる。

また、ARTwikiシステムを活用し、本拠点の伝統芸能にかかわるさまざまなプロジェクトの知識アーカイブとして使ってもらおうよう、古典芸能事典を整備する。

【邦楽音源アーカイブ】（大西・赤間）

大西氏所蔵邦楽音源のデジタル化とそのデータベース公開方法について、検討を開始する。技術的側面のみならず、権利処理、活用方法についても議論していきたい。

【戦後歌舞伎興行データベースの改良】（赤間）

現在、日本俳優協会が提供している歌舞伎興行データベースおよび日本芸術文化振興会の文化デジタルライブラリーを使用して、頻繁に上演される演目についての上演情報を整理・集約する。その上で、分析に必要と思われる、付加が可能な情報（上演時間・出演者数など）の追加について、松竹大谷図書館と共同研究を進める。

【相撲番付のデータベース作成】（坂部、赤間）

小島貞二氏所蔵の相撲番付のデジタルデータ化を試みる。相撲は、データベース化を進めている歌舞伎や落語同様に江戸時代から続く庶民向けの興行であり、業界内部の構造がこれらと近似する部分があるため、データ化が急がれる。

【ポータルサイトを用いた関西伝統芸能情報、日本文化情報の発信】（赤間・加茂）

ポータルサイト「伝統芸能Live!」を活用して関西を中心とした伝統芸能・日本文化に関連する情報を日本語・英語の二か国語で発信する。本サイトでは関西地区に限定しているものの、芸能・文化に関する情報を一箇所に集積し発信することにより、日本文化や伝統芸能に興味を持った人がより効率的に情報を閲覧することが可能な唯一のサイトである。また、ブログ形式によって情報を蓄積していくため情報アーカイブという点においても今後情報のアーカイブ・分析を行うに十分なデータが集積されている。

7. 教育研究計画・方法		
教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
4月	なにわの遊・楽 芝居・祭り・花暦 展協力	大阪くらしの今昔館
4月～5月	国立音楽大学音曲資料閲覧DBの完成 (赤間・金子)	ARC
6月～12月	レコード音源データベース公開打合せと研究 (大西・赤間)	
4月～7月	ARC所蔵歌舞伎番付の整理とデジタルアーカイブ (倉橋・金子・赤間)	
10月	一般向け歌舞伎番付閲覧DBの公開 (赤間・金子)	
12月	名作歌舞伎作品展 (落語や講談、舞踊など周辺芸能との関係を意識した展示とイベント)(二俣・坂部) (広告費:60000円、講師謝金30000,交通費30000円～、 展示関連費用:40000円)	ARC 1F展示室
12月	歌舞伎学会発表(PD 2名)	
1月	歌舞伎デジタル博物館のリリース (赤間)	
4月-3月	役者絵DBの更新・増補 (松葉、倉橋、二俣、周、金子、赤間)	
4月-3月	ポータルサイト「伝統芸能Live!」情報更新 情報の発信とアーカイブを実施 (加茂、赤間)	